

第6回保育について語ろうデーのお知らせ

令和元年 10月9日(水) 実施しました!



香川大学教育学部 附属幼稚園

参加者：幼稚園教員 坂出市 1名
高松市 1名
善通寺市 2名
多度津町 1名
保育所保育士 丸亀市 1名
高松市 1名

共に語りあった方：金子之史先生 片岡元子先生
松本博雄先生

9:15	保育公開
11:30	降園
12:00	昼食会・自己紹介
13:15	協議1 保育について
15:00	協議2 事例検討
16:15	終了



語り合ったことのお知らせします!

【分かりやすいきまりをつくる保育に、甘んじてはいないか】

片付けの時間や園庭を使う順番など、園の実情に応じて決めているところは多いようです。基本的な生活習慣や安全を願ってのきまりなのでしょう。しかし、決められているからやるという経験は、本当に子供たちの自ら健康で安全な生活をつくり出す姿を育むのでしょうか。

各園ならではのきまりや失敗談、悩みを出し合いながら、幼児期に支えたい体験ってどのようなものか、保育者はどのような心持ちで支援するといったかなどについて話し合いました。



【事例(5歳児10月) ~それぞれの育ちの中で~】

友だちとゲーム(ゴルフごっこ)を楽しむ中で、自分の思うような結果にならなかった時のA児の姿は、自分の気持ちと葛藤しているように保育者にはうつりました。どの子も、ありのままの自分を表出できることを願っている保育者は、A児は「ありのままの自分を表出できているのだろうか?」と、考え悩んでいました。涙を浮かべたA児の姿は、どんな内面からくるものだったのでしょうか?友達と共にじっくり遊びを進めていく中で、B児やC児がA児を思いやる様子、これまでのA児の姿やA児を取り巻く今の環境など、いろいろな視点からA児B児C児の育ちについて、また保育者の子どもの見方について話し合いました。

【語ろうデーに参加して感じたこと ~参加者アンケートより~】

- 同じ遊びについて、いろいろな視点から考えを出し合いながら話し合う時間はとても学びがあった。自分の職場でも今日のような話し合いができるようにしていきたい。(40代Aさん)
- 温かい雰囲気の中、自園のことについて親身になって意見をいただいてありがたかった。「やってみながら考える」今の自分にぴったりのキーワードだった。(40代Bさん)
- 谷口先生の「子供が育った」ではなく「子供がもともともといた力やその子らしさを友達との関係性の中で出せるようになった」という見方が心に残った。私もそのような見方をもちたい。次回も参加して、とにかく保育について自分の言葉で語りたい。楽しみです(30代Cさん)

次回は、12月17日(火)高松園舎です。